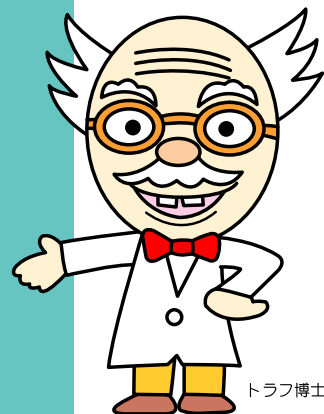




つなみまん

土佐の



トラフ博士

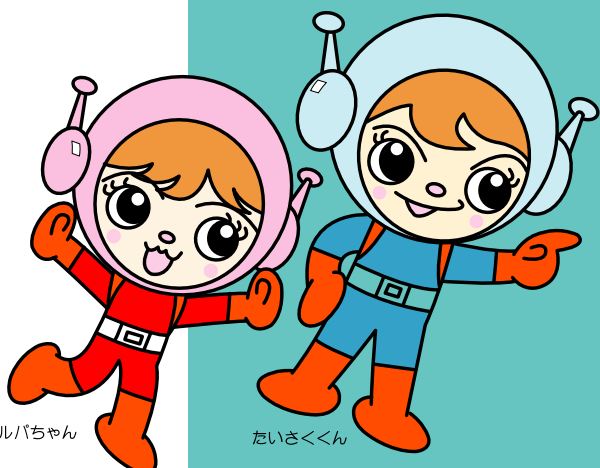
# 防災学習 プログラム

南海地震に備えよう

高知県教育委員会  
平成18年3月



ゆうどうくん



ヘルパちゃん

たいさくくん



じしんまん

## はじめに

近い将来、それも今の子どもたちが大人になった頃に発生する可能性が高い「南海地震」。残念ながら、私たちの力では地震が起こるのを止めることはできません。

しかし、備えをすることで【被害をできるだけ出さない、被害をできるだけ小さくする】ことはできます。また、一人一人が知恵をつけて、力を合わせれば、震災に立ち向かっていくことができ、早い復興も可能です。そのためには、防災力の向上、防災教育が不可欠だと考えます。

高知県教育委員会では、幼児期の子どもから【自分の命は自分で守る】ことができるような、そして、年齢が上がるにつれ、周りの人々にも気を配ることができる〔心〕が育つような防災教育を実践していきたいと考えています。

各園や学校では、すでに防災教育を実施していただいていると思いますが、今回、幼児期からの防災学習の例として、『土佐の防災学習プログラム～南海地震に備えよう～』を作成しました。このプログラムは、「四国4県共同防災学習プログラム【小・中学校編】」（平成16年2月）をもとに、各校種（保育所・幼稚園、小学校低学年、高学年、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校毎）に、編集しています。

子どもたちの防災力の向上が、現在そして将来の、地域ひいては高知県全体の、防災力の向上につながると思います。

ぜひ、このプログラムを活用していただき、地域の実情にあった地域ぐるみの防災教育の実践をお願いします。

平成18年3月

高知県教育委員会事務局 児童生徒支援課長 依岡雅文

### 活用にあたって

この『土佐の防災学習プログラム～南海地震に備えよう～』には、各園・学校で比較的容易に防災学習に取り組んでいただけるよう、学習の流れ、教材・資料等を紹介しています。

各園・学校で、実態にあった防災学習が可能なように、

★プログラムの順序のとおりでなくても、活用できるところから実施する。

★子どもたちや学校の実態にあわせて、プログラムを変更して活用する。

★イラストや写真などを、園や学校で印刷する。

★教材として活用できるホームページへアクセスする。

・・・ことができるよう、プログラムのデータをCDに入れてあります。また、ホームページにも掲載しますので、ぜひ、多くの園や学校でご活用いただきたいと思います。

子どもたちが将来、地域のリーダーとなって活躍するとき、幼児期からの防災学習が活かされる、積み上げ学習の例として、この学習プログラムを活用いただければ幸いです。

～たとえ明日、「南海地震」が発生しても、子どもたちが【自分の命は自分で守る】ことができるようになってほしいと願ってやみません～

高知県教育委員会事務局 防災教育ワーキングチーム

# 目次

防災学習プログラム・各校種目標	1
防災学習プログラム～保育所・幼稚園編～	2
防災学習プログラム～小学校・低学年編～	5
防災学習プログラム～小学校・高学年編～	8
防災学習プログラムを進めるための配慮事項～保育園・幼稚園・小学校編～	11
防災学習プログラム～中学校編～	14
防災学習プログラム～高等学校編～	17
防災学習プログラムを進めるための配慮事項～中学校・高等学校編～	20
防災学習プログラム～盲・聾・養護学校編～	22
障害種別の配慮事項	23
ヘルプカードについて	26
ヘルプカードの例（知的障害の場合）	27
◆イラスト～地震前～ No.1	28
◆イラスト～地震前～ No.2	29
◆イラスト～地震後～ No.1	30
◆イラスト～地震後～ No.2	31
◆新潟県中越地震における現地調査写真	32
◆阪神・淡路大震災における現地調査写真	33
参考資料	34
・我が家の防災チェックシート	34
・災害時の応急手当	35
・引き渡しカード例	37
・防災マップ例	38
・防災学習教材として活用できるゲーム等の紹介	39
・平成18年度市町村・消防防災担当課一覧	40
・教材として使えるビデオ・CD一覧表	41
・防災学習に活用できるホームページ一覧表	42

## 防災学習プログラム・各校種目標

【 目 標 】	
保幼 育稚 所園	<p>『災害時、自分で自分の命を守ろうとする。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動しようとする。 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動しようとする。 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。 家庭・地域と連携しながら、園での取組を家庭・地域へ広げていく。</p>
小 学 校 ・ 低 学 年	<p>『災害時、自分で自分の命を守ることができるようになる。』 『学習したことを家庭に広げることができるようになる。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。 4 学習したことを家の人に話すことで、知識を自分のものにする。 (家庭へ広げていく)</p>
小 学 校 ・ 高 学 年	<p>『災害時、自分で自分の命を守ることができるようになる。』 『身近な場所での危険個所を見つけ、日ごろから地震への備えをする。』 『学習したことを全校・家庭・地域に広げる。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。 4 身近な場所の危険個所を見つけ、日ごろから地震への備えについて考える。 5 学習したことを活かして、防災マップを校内に掲示したり、防災に関する啓発新聞を地域に配布したりして、全校・家庭・地域に広げる。</p>
中 学 校	<p>『災害時、自分で自分の命を守ることができる。』 『災害時に自分たちにできることを考え、行動できるようにする。』 『学習したことを全校・家庭・地域に広げる。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できる。 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できる。 3 「いざ」というときの行動力を身につける。 4 災害後にボランティア活動などに積極的に参加しようとする。 5 防災学習の成果を全校・家庭・地域に発信する。</p>
高 等 学 校	<p>『災害時、自分で自分の命を守ることができる。』 『災害後の活動に積極的に取り組む。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 これまでの防災学習をふり返り、揺れや津波から身を守る行動ができる。 2 地震後に、家庭や学校のまわりの住民の、避難の手助けや救助活動ができるよう地域とつながりをもつ。 3 災害直後の救助活動に役立てるために、応急手当法などを身につける。 4 地域の一員として、ボランティア活動の具体的な取組を知り、災害後のボランティア活動に積極的に参加する。</p>
盲養 ・護 聾学 ・校	<p>『状況を理解して、自分の命を守ることができるようになる。』</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。 3 避難訓練を通して、地震が起こったときの行動力を身につける。</p>

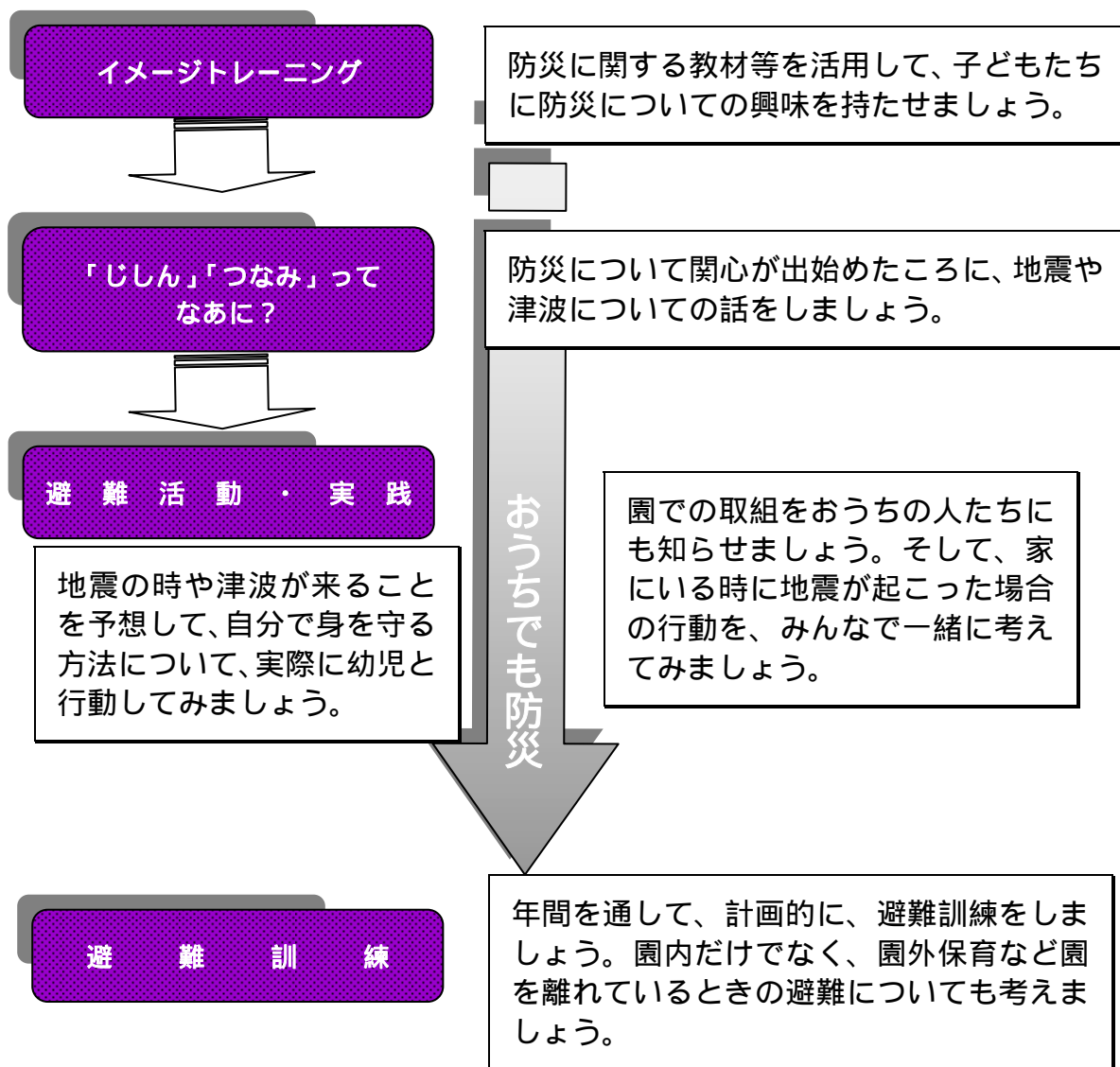
## 防災学習プログラム～保育所・幼稚園編～

### 【目標】

『災害時、自分で自分の命を守ろうとする。』

- 1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動しようとする。
- 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動しようとする。
- 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。  
家庭・地域と連携しながら、園での取組を家庭・地域へ広げていく。

### 【構成】



～ 保育所・幼稚園 編 ～

構成	学習テーマ 目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
イメージトレーニング	<p>「さあ、じしんだ。つなみだ！」</p> <p>【ポイント】 地震や津波をイメージする。</p>	<p>いろいろな教材や映像を活用して、生活の中で起こる地震や津波の場面をイメージする。 紙芝居や人形劇、絵本等から 視聴覚教材（ビデオ教材、ニュース等）から 日常の会話から など</p>	<p>興味・関心を高め、発達段階に応じて、具体的にイメージできる教材を活用する。 単に「こわい」または「おもしろい」だけの印象で終わらないように配慮する。 ビデオ教材の活用等</p>
基礎知識	<p>「じしん」「つなみ」ってなあに？</p> <p>【ポイント】 地震や津波について学ぶ。</p>	<p>地震・津波についての基礎知識を得る。</p> <p>地震とは 揺れ方 被害 津波とは 避難すること など</p>	<p>保育室内がどのような状況になるのか、積み木を崩したり、机を揺らしたり等、具体的な方法を用いる。 津波を想定するために、水遊びやプール遊びとの関連を図る方法も考えられる。</p>
1 避難活動・実践	<p>「じしんから自分のいのちをまもろう」</p> <p>【ポイント】 地震から身を守る方法を学ぶ。</p>	<p>地震から身を守るために必要なことを知り、行動化する。</p> <p>《揺れている時》 その場にしゃがみ、安全な所に身をよせる 頭を守る 机、いすの脚を持つ 近くの保育者を見る など</p> <p>《揺れがおさまった時》 保育者の側へ行き、指示に従う 安全な場所へ移動する など</p> <p>園の内外のいろいろな場所へ行き、揺れが起こったときの行動をとってみる。 保育室 廊下や階段 遊戯室 園庭 よく行く公園 など</p> <p><u>周りの状況（倒れたもの、落ちてきたもの、割れたものなどがある）をイメージする。</u></p>	<p>年齢に応じて、「なぜ頭を守るのか」等必要性を知らせながら、具体的な行動の仕方について指導する。 防災ダック 等 万一担任がいない場合は、他の保育者の指示に従うことも併せて指導する。 保育室や遊戯室では中央付近に集まる等具体的に指示する。 上履きや防災頭巾等の配置についても配慮する。</p>

構成	学習テーマ 目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
2 避難活動・実践	<p>「つなみから自分のいのちをまもろう」</p> <p>【ポイント】 津波から身を守る方法を学ぶ。</p>	<p>津波が起こることを想定して、安全な場所への避難の方法を知り、行動化する。</p> <p>保育者の指示に従う 慌てない 上履きのまま 頭を守るもの 物を持たない 安全な避難経路</p> <p><u>周りの状況（倒れたもの、落ちてきたもの、割れたものなどがある）をイメージする。</u></p>	<p>なぜ、津波から避難するのかを知らせ、適切な行動ができるように具体的に指導する。</p> <p>避難場所までの道すじについて慣れるようにしておく。</p> <p>地域防災マップの活用 等</p>
避難訓練（月1回程度）	<p>「みんなでひなん」</p> <p>【ポイント】 園全体で避難訓練をする。</p>	<p>園全体で、津波も想定した計画的・実践的な避難訓練をする。</p> <p>避難時の合図・アナウンス 集合場所の確認と指示 災害状況別（地震、津波、火災） 夏季・冬季 午睡中 食事中 など</p> <p><u>集団行動をとりづらい幼児や特別な援助を必要とする幼児へ配慮する。</u></p>	<p>津波到達予想時間を想定し、園全体の避難方法に従い、迅速に避難する訓練を行う。</p> <p>全職員の共通理解のもと、さまざまな時期、時刻、職員配置等を想定する。</p>
おうちでも防災（適宜）	<p>「おうちでも防災について考えよう」</p> <p>【ポイント】 園での取組をおうちの人に知らせ、家庭内での防災について子どもと一緒に考えてもらおう。</p>	<p>園での取組を園だより等でおうちの人に知らせ、家にいるときの身の守り方についても考える。</p> <p>地震、津波について 揺れているときの行動 避難場所 避難経路 家族の集合場所 車に乗っているとき 登降園中 就寝中 など</p>	<p>園だよりの他に、参観日や親子行事等を活用して、保護者の防災意識を高める。</p> <p>家庭での積極的な取組事例や地域の防災情報等を家庭に知らせる。</p>

## 防災学習プログラム～小学校・低学年編～

### 【目標】

『災害時、自分で自分の命を守ることができるようになる。』

『学習したことを家庭に広げることができるようになる。』

- 1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
- 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
- 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。
- 4 学習したことを、家の人に話すことで知識を自分のものにする。  
(家庭へ広げていく)

### 【構成】

イメージトレーニング

防災について興味・関心を持ちましょう。

地震・津波の基礎知識

南海地震についての基礎知識を学習しましょう。

避難活動・実践

地震の揺れや強さを認識したうえで、身を守る方法を考えてみましょう。そして、実際に行動してみましょう。

おうちで防災クイズ

学習したことをクイズにして、おうちの人に出してみましょう。そして、家にいる時に地震が起こった時の行動を一緒に考えてみましょう。

避難訓練

今まで学習したことをもとに、避難訓練をしましょう。そして、災害時に活かすことができるよう、学習のまとめをしましょう。

～ 小学校・低学年編～

構成	学習テーマ 目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
イメージトレーニング（１時間）	<p>「さあ、じしんだ。きみならどうする？～パート１～」</p> <p>【ポイント】 地震が起こったときに、自分のとる行動を想定する。</p>	<p>場面を想定して、地震が起こったときの自分の行動を考える。</p> <p>学校にいる時 教室 廊下や階段 音楽室や図書室 体育館 運動場</p> <p>家にいる時 寝ている時 リビングで 夕食の時</p> <p>登下校、遊びに行っている時 近くに塀や自動販売機がある時 海の近く、川岸・橋の上にいる時 山やがけの近くにいる時 公園で遊んでいる時</p> <p><u>倒れてきそうなもの、落ちてきそうなものを想像し、自分の行動をイメージする。</u></p>	<p>学年毎に想定する場面を広げていく。</p> <p>地震前のイラストを参考に地震の揺れでどうなるか予想させる。</p> <p>地震後のイラストで予想される状況を確認する。 (イラスト P 28 ~ P 31 参照)</p>
基礎知識（１時間）	<p>「じしん・つなみってどんなもの？」</p> <p>【ポイント】 地震や津波について学ぶ。</p>	<p>地震・津波についての基礎知識を身につける。</p> <p>地震の大きさ 揺れ方 被害 津波の起こり方 続く時間 など</p>	<p>南海地震が発生したときに、どんなことが起こるのかを理解させる。</p> <p>CD、ビデオ教材を活用する。</p>
1 避難活動・実践（２時間）	<p>「じしん・つなみから自分のいのちをまもろう」</p> <p>【ポイント】 地震・津波から身を守る方法を学習する。</p>	<p>地震・津波から考える。</p> <p>身を守るために必要なことを知り、大切なことを《揺れているとき》 その場にしゃがみ、頭を守る 机の下にもぐり、机の脚を持つ など</p> <p>《揺れがおさまったとき》 安全な場所へ移動する 津波から身を守れるところまで避難する。</p> <p><u>起震車で南海地震を想定した揺れを体験する。</u></p>	<p>いろいろな場面のイラストを見ながら、揺れから身を守る具体的な行動を考えさせる。</p> <p>津波を想定し、学校からはどこに避難するのかを確認する。</p>

構成	学習テーマ 目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
2 避難活動・実践（2時間）	<p>「さあ、じしんだ。きみならどうする？～パート2～」</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震が起こったときに、揺れからどうやって身を守るか、実際にやってみる。</li> <li>命を守る行動がとれたか振り返る。</li> </ul>	<p>学校の中のいろいろな場所へ行って、揺れが起こった時の行動をとってみる。</p> <p>教室 廊下や階段 音楽室や図書室 体育館 運動場</p> <p>揺れがおさまった時の行動をとってみる。</p> <p><u>周りの状況(倒れたもの、落ちてきたもの、割れたものなどがある)をイメージする。</u></p>	<p>地震後のイラスト等を見て、自分の行動で命が守れるのか、確認する。</p>
防災クイズ（2時間）	<p>「おうちのひとにじしんひなんクイズをだしてみよう」</p> <p>【ポイント】</p> <p>学習したことをクイズにしておうちの人に考えてもらうことで、知識を確かなものにする。</p>	<p>今までの学習をもとに、地震避難クイズを考える。</p> <p>おうちのひとにクイズを出して、家にいるときの身の守り方についても考える。</p> <p>地震、津波について 揺れている時の行動 避難場所 避難経路 家族の集合場所 など</p> <p>例) 南海地震が起こったら、地震の揺れは約何秒間続くでしょうか？ 25秒 50秒 100秒</p>	
（1時間） 避難訓練	<p>「みんなでひなん」</p> <p>【ポイント】</p> <p>学校全体で避難訓練をする。</p>	<p>学校全体で、津波も想定した実践的な避難訓練をする。</p>	<p>地震発生時の具体的な状況を想定し、段階を追って、より実践的な訓練にしていく。</p>
（1時間） 学習のまとめ	<p>「ぼくは、わたしはこうしてみをまもるよ！」</p> <p>【ポイント】</p> <p>避難訓練の反省や「もしも」の時にどうするかをまとめる。</p>	<p>避難訓練の時、うまくいったところや次に気を付けること、気づいたことをまとめる。</p>	

## 防災学習プログラム～小学校・高学年編～

### 【目標】

- 『災害時、自分で自分の命を守ることができるようになる。』
- 『身近な場所での危険個所を見つけ、日ごろから地震への備えをする。』
- 『学習したことを全校・家庭・地域に広げる。』

- 1 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
- 2 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
- 3 避難訓練を通して、「いざ」というときの行動力を身につける。
- 4 身近な場所の危険個所を見つけ、日ごろから地震への備えについて考える。
- 5 学習したことを活かして、防災マップを校内に掲示したり、防災に関する啓発新聞を地域に配布したりして、全校・家庭・地域に広げる。  
( 防災マップを作成することで避難経路を知り、学習したことを自分のものとする。 )

### 【構成】

#### 行動・イメージトレーニング

地震の揺れから身を守る方法について興味・関心を持ちましょう。

#### 地震・津波の基礎知識

地震・津波についての基礎知識を学びましょう。

#### 避難場所の安全の確認・危険個所への対応

避難場所・避難経路が安全か確かめてみましょう。そして、危険個所を見つけ、対処方法を考えてみましょう。

#### 家でも防災

家にいる時に地震が起こった場合の行動や役割、日ごろの備えや対処方法を一緒に考えてみましょう。

#### 避難訓練

学習したことを活かして、避難訓練をしましょう。

#### 地域でも防災

学習したことをまとめ、防災マップや防災新聞を作成し、校内や地域に掲示したり、配布したりしましょう。

～ 小学校・高学年編 ～

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
<p>行動・イメージトレーニング（1時間）</p>	<p>「さあ、地震だ。きみならどうする？」</p> <p>【ポイント】 地震が起こったときに、揺れから身を守る方法を知る。</p>	<p>廊下にいるときに地震が起こったと想定して、揺れから身を守る行動をとってみる。 いろいろな場面を想定し、揺れから身を守る方法を確認する。</p> <p>学校にいる時 教室      廊下や階段      体育館 音楽室や図書室      運動場</p> <p>登下校途中、遊びに行っている時 近くに塀や自動販売機がある時 海の近く、川岸・橋の上にいる時 山やがけの近くにいる時 公園で遊んでいる時</p> <p>外出している時 ビル街      乗り物（列車やバス） 映画館やホール      エレベーター</p> <p><u>倒れてくるもの、落ちてくるものを想像し、自分の行動をイメージする。</u></p>	<p>就学前や低学年で学習してきた「安全確保のための基本行動（第一次避難）を想起させる。</p> <p>イラスト及び写真を活用して、各場面をイメージさせる。</p>
<p>基礎知識 ・（1時間） 津波の</p>	<p>「地震・津波から自分の命を守ろう」</p> <p>【ポイント】 ・地震、津波について学習する。 ・地震、津波から身を守る方法を知る。</p>	<p>地震・津波についての基礎知識を身につける。</p> <p>地震の大きさ      震度      揺れ方 被害      津波の起こり方      続く時間      など</p> <p>地震・津波から身を守るために必要なことを知り、大切なことを考える。</p> <p>《揺れている時》 頭を守る</p> <p>《揺れがおさまった時》 安全な場所へ移動する</p>	<p>南海地震発生時に、高知県では地震そのものもたらず被害だけでなく、津波による被害も甚大なものになると予想されていることを理解させる。 CD、ビデオ教材を活用する</p>

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
危険箇所への避難場所の安全確認（3時間）	<p>「安全な場所って、どこかな？」</p> <p>【ポイント】 避難場所・経路は安全か確かめる。</p> <p>「教室や学校の中の危険箇所を調べよう」</p> <p>【ポイント】 地震（揺れ）が起こった時の危険箇所を見つけ、対処方法を考える。</p>	<p>避難場所や避難経路は安全か確かめる。</p> <p>教室や学校の中のいろいろな場所へ行き、地震が起こった時に危険な箇所（落下、崩れる）を見つける。</p> <p>教室 廊下や階段、ベランダ 音楽室や図書室 体育館 運動場</p> <p>メモをとる・対処の方法を考える・できることからやってみる。</p> <p>例）階段にある不要なものを取り除く</p>	<p>（地域でも防災）での、防災マップや防災新聞作成を意識しての現地調査などを行わせる。</p>
家でも防災（1時間）	<p>「家にいる時に地震が起きたら？」</p> <p>【ポイント】 揺れからの身の守り方、避難場所、危険箇所など、日ごろからの備えについて考える。</p>	<p>家にいる時の揺れからの身の守り方を考える。</p> <p>自分の部屋 リビング 台所 寝室</p> <p>避難経路、避難する時の役割、家族の集合場所などを確認する。（家庭学習）</p> <p>家の中の危険箇所を見つけ、今できることを実践する。（家庭学習）</p> <p>日ごろ、どのようなものを準備しておくか考える。 枕元に靴 ラジオ など</p>	<p>イラスト及び写真を活用し、具体的なイメージを持たせるようにする。</p> <p>非常持ち出し品の準備や家具の固定など家族ぐるみの具体的な行動につながるよう意識づけを行う。</p>
避難訓練（1時間）	<p>「みんなで避難！」</p> <p>【ポイント】 学校全体で避難訓練をする。</p>	<p>学校全体で、津波も想定した実践的な避難訓練を行う。</p>	<p>学校、地域の実態に応じた避難訓練を行う。</p>
地域でも防災（3時間）	<p>「防災マップや防災新聞を作ろう！」</p> <p>【ポイント】 学習したことを家庭や地域にも発信する。</p>	<p>防災マップや防災新聞を作成し、校内に掲示したり、家庭や地域に配布したりすることで、学習したことを学校内外に広く発信する。</p>	<p>他に、ホームページでの情報発信や学習発表会でのプレゼンテーションなども考えられる。</p>

## 防災学習プログラムを進めるための配慮事項 ～ 保育園・幼稚園・小学校編～

### 年間指導計画の作成

年間指導計画の中に、**防災教育の視点**を入れて、年齢や発達に応じたねらいと内容を設定し、育てる力や態度を明確にすること。

年度当初、避難訓練の計画を立てる際には、学習プログラムとの関連性を図りながら、**地震・津波を想定した訓練**を実施すること。また、訓練の際には、具体的に「地震発生時の状況」を設定し、より実践的な避難訓練（子どもが考えて行動できる要素を増やしていく）が実施できるようにすること。

例；小学校 1回目 授業中 けが人なし  
2回目 休み時間 けが人なし  
3回目 休み時間 担任がけが

一貫した指導を行うために、避難時の声かけや指示・判断・合図等について、園・学校**全体での指導方法**を確認すること。

例；「お・は・し」「**おさない**」・「**はしらない**」・「**しゃべらない**」

；安全確保のための基本行動（第一次避難）

身体のプロtection・・・安全な場所への避難・頭部の保護 等

避難口の確保・・・窓やドアを開ける・カーテンを閉める 等

危険物の取扱・・・電気、ガス、ストーブ等危険なものの取扱 等

避難時・・・靴・防寒着・帽子の着衣、人員確認、

非常持ち出し袋 等

### 防災マニュアルの見直し（日ごろからの安全管理）

危機管理マニュアルの中に、**地震・津波を想定したマニュアル**も作成し、常に点検すること。地域における**避難場所を確認**し、避難経路の安全確認と避難方法等についての避難訓練も行うこと。

保護者に確実に引き渡すまでの避難場所での過ごし方や**引き渡しの方法**等についても想定しておくこと。

地震等による被害を最小限のものとするため、園の施設・設備等の点検・整備を行い、**安全管理の徹底**を図ること。

例；避難経路となる廊下、階段、出入口付近には、避難時障害物となる戸棚、遊具、置物、可燃性の物品は置かないようにする。  
；長時間過ごす保育室・教室には、振動で落下・転倒する危険性のあるもの（テレビなど）がないかどうか常に点検すること。

## 職員間での共通理解

防災教育を効果的に進めるためには、**全職員**で取り組むことが重要であること。  
非常時における職員一人一人の役割を自覚し、適切かつ迅速に、統一した行動がとれるように常に**共通理解**を図ること。  
地震の揺れの強弱にかかわらず、年齢が低いほど周囲や環境に過敏に反応しやすいため、**不安や緊張を最小限にとどめる**ように、優しい言葉がけや抱きしめるなど子どもを安心させるよう配慮すること。  
保育中は、園庭や保育室・遊戯室など園内へ園児が分散する活動が多いため、**職員の配置**などについても配慮すること。  
職員の不在・負傷等により、子どもの避難誘導ができなくなった場合等も想定し、**臨機応変に対応**ができるようにしておくこと。

## 特別な援助を必要とする子ども等への配慮

避難訓練を通して、不安・緊張のあまり動けなくなる、泣き叫ぶ、保育者の指示が聞けない等、**子ども一人一人の行動を把握**すること。  
一人で移動ができないなど、**特別な援助を必要とする子ども**の避難や安全確保に努めること。(ヘルプカードの作成 26ページ参照)

## 家庭との連携

**確実に保護者へ引き渡し**をすることを最優先し、保護者に対して、非常時の園・学校の体制や避難場所(第一次・第二次)について、周知徹底すること。  
引き渡しを確実にを行うため、一人一人の「**引き渡しカード**」(37ページ参照)を作成し、その方法について、保護者と確認しておくこと。  
災害の度合いによっては避難場所での生活が長期にわたることも想定して、保護者に確実に引き渡すまでの避難場所での過ごし方や引き渡しの方法、子どもの健康管理に要する**資料等の持ち出し**について準備をしておくこと。

## 地域・関係機関との連携

所長・園長・校長は、非常時に地域の協力を得るため、日ごろから自主防災組織、地域防災協議会など**地域の防災関係者とのつながり**をもち、警察署、消防署など関係機関等との連絡を密にすること。

園・学校だよりや行事等を通して、子どもたちの様子を地域にも発信するなど、日ごろから「**開かれた園・学校づくり**」に努めること。

子どもの安全確保のために、教育委員会、市町村防災担当課や消防、警察等の関係機関と連携を図り、**避難時の避難場所として指定されている場合はその機能**について周知しておくこと。また、**避難場所における園・学校の職員の役割や担うべき業務等**についても全職員で**共通理解**を図ること。

避難訓練を計画する際に、**地域における防災避難訓練等**との連携なども考慮すること。

特に、保育所・幼稚園は女性職員が占める割合が高いため、津波災害の危険度が高い園においては、地域の協力が必要な場合が多い。近隣住民の方など、**協力してくれる体制**を早急に整える必要があること。

防災無線や防災ベル等の緊急連絡の整備について、関係機関との連携を密にすること。

## 職員の防災教育研修

### 園・校内研修

- ・ 地震・津波等の災害に対する最新の知識・理解を得ること。
- ・ 防災マニュアル・防災学習プログラム・教材の検討
- ・ 避難訓練の具体的指導方法の共通理解
- ・ 園・校内の安全管理・点検
- ・ 災害時の心のケア・カウンセリング研修 等

### 園・校外研修

- ・ 県や市町村の主催する防災・安全教育研修への参加
- ・ 防災教育を推進する園・学校の視察
- ・ 地域の防災避難訓練への参加 等

## 防災学習プログラム～中学校編～

### 【目標】

- 『災害時、自分で自分の命を守ることができる。』
- 『災害時に自分たちにできることを考え、行動できるようにする。』
- 『学習したことを全校・家庭・地域に広げる。』

- 1 揺れから身を守る方法を知り、行動できる。
- 2 津波から身を守る方法を知り、行動できる。
- 3 「いざ」というときの行動力を身につける。
- 4 災害後にボランティア活動などに積極的に参加しようとする。
- 5 防災学習の成果を全校・家庭・地域に発信する。

### 【構成】

イメージトレーニング

防災について関心を持ちましょう。

避難活動・実践

南海地震の揺れの強さを認識したうえで、身を守る方法を考えてみましょう。そして、実際に行動してみましょう。

地震・津波に関する学習

地震や津波について学習活動を行い、南海地震について考えてみましょう。

避難訓練

今まで学習したことをもとに、避難訓練をしましょう。そして、次に活かすために学習のまとめをしましょう。

災害後の活動

ボランティア活動など災害後の活動について考えましょう。

学習したことを広げる

学習したことをまわりの人に伝えることを考えましょう。

～ 中学校編 ～

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
イメージトレーニング （1時間）	<p><b>「南海地震が発生したらどうなる」</b></p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの住んでいる地域で南海地震が起こったときに、どのような被害が発生するかを認識する。</li> </ul>	<p>過去の地震や津波の資料、映像等を通して、巨大地震の特徴を知り、次の南海地震が発生した場合は、揺れや津波で多くの被害が発生することが予想されていることを学習する。</p> <p>これまでの防災学習を振り返る。 南海地震の特徴を知る。 南海地震が起こったときの行動を考える。</p>	<p>指導資料や視聴覚教材、コンピュータなどを活用し、次の南海地震の特徴をイメージ化できるようにする。</p>
避難活動・実践 ・避難訓練1 （2時間）	<p><b>「避難訓練1」</b></p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練から、「いざ」という時の行動の取り方を身に付ける。</li> <li>避難訓練の状況を自分たちで検証する。</li> </ul>	<p>実践的な避難訓練を行い、どんな危険が潜んでいるか、また、自分たちはどのような行動を取ればいいのかを考える。</p> <p><u>起震車で、南海地震を想定した揺れを体験する。</u> <u>応急手当の知識、理解など。</u> 避難訓練計画表をもとに、自分たちは、どのような行動が取れたかを話し合う。</p>	<p>様々なトラブルを想定した避難訓練計画表を作成する。 地域の防災担当課や地元の消防署などに協力を依頼する。</p>
1 地震・津波に関する知識と行動 （2時間）	<p><b>「防災会議を開こう」</b> ～防災シュミレーション～</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南海地震が起こったとき、想定される被害から身を守るための方法を考える。</li> </ul>	<p>資料から、さまざまな場所で地震に遭遇したときに想定される被害から身を守るために、何をしなければならないかを話し合う。</p> <p>学校にいる時（教室、体育館、理科室など） 登下校の時（住宅街、商店街、川沿いなど） 校外で活動している時（山、海岸、市街地など）</p> <p><u>グループ学習の手法をつかい、その結果を発表する。</u></p>	<p>県や地域で作成している南海地震に関する資料を準備する。</p>

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
2 地震・津波に関する知識と行動 （1時間）	<p>「南海地震には、どんな備えが必要か」            ～地震だ、そのとき君は～</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での備え、避難経路、避難場所について考える。</li> </ul>	<p>南海地震への家庭での備え、避難経路、避難場所の確認、ケガをしたときの応急手当など、自ら身を守る方法を具体的に書き出し、互いに発表する。</p> <p>ワークシート（例）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">氏名（            ）</p> <p>わが家の安全度について</p> <p>家庭での身の守り方について</p> <p>地震に対しての準備状況について</p> <p>避難経路と避難場所について</p> <p>家族の防災意識について</p> </div>	<p>わが家の防災チェックシート、ワークシートなどを活用する。</p>
避難訓練避難活動・実践 （1時間）	<p>「避難訓練 2」</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習をもとに避難訓練を実施し、自分たちの行動を検証する。</li> </ul>	<p>南海地震を想定した避難訓練を行い、これまで地震・津波等から身を守るために学習してきたことが十分に活かされているか振り返る。</p> <p>振り返りシート（例）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">氏名（            ）</p> <p>これまでの避難訓練について</p> <p>今回の避難訓練について</p> <p>今後のあり方について</p> </div>	<p>南海地震を想定した避難訓練を計画、実施する。地域と連携した避難訓練も考えられる。振り返りシートの作成。</p>
災害後の活動 （1時間）	<p>「災害後の行動について」            ～今自分にできること～</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害後の活動について考える。</li> </ul>	<p>災害後のボランティア活動などについて話し合う。</p> <p><u>避難場所として自分達の学校の役割とそこでできる自分達の活動を考えてみる。</u></p>	<p>災害時のボランティア活動の資料、CD、ビデオ等を活用する。</p>
広げる （2時間）	<p>「学んだことを広げよう」</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを全校・家庭・地域に広げる。</li> </ul>	<p>学習したことを全校・家庭・地域に広げる。</p> <p><u>学習の成果として、避難マップなどを作成し発表する。</u></p> <p><u>避難マップ等をポスターにするなどして、全校・家庭・地域に発信する。</u></p>	<p>地区別でグループを編成し、地域や家庭との連携に心がける。ホームページでの情報発信等も考えられる。</p>

## 防災学習プログラム～高等学校編～

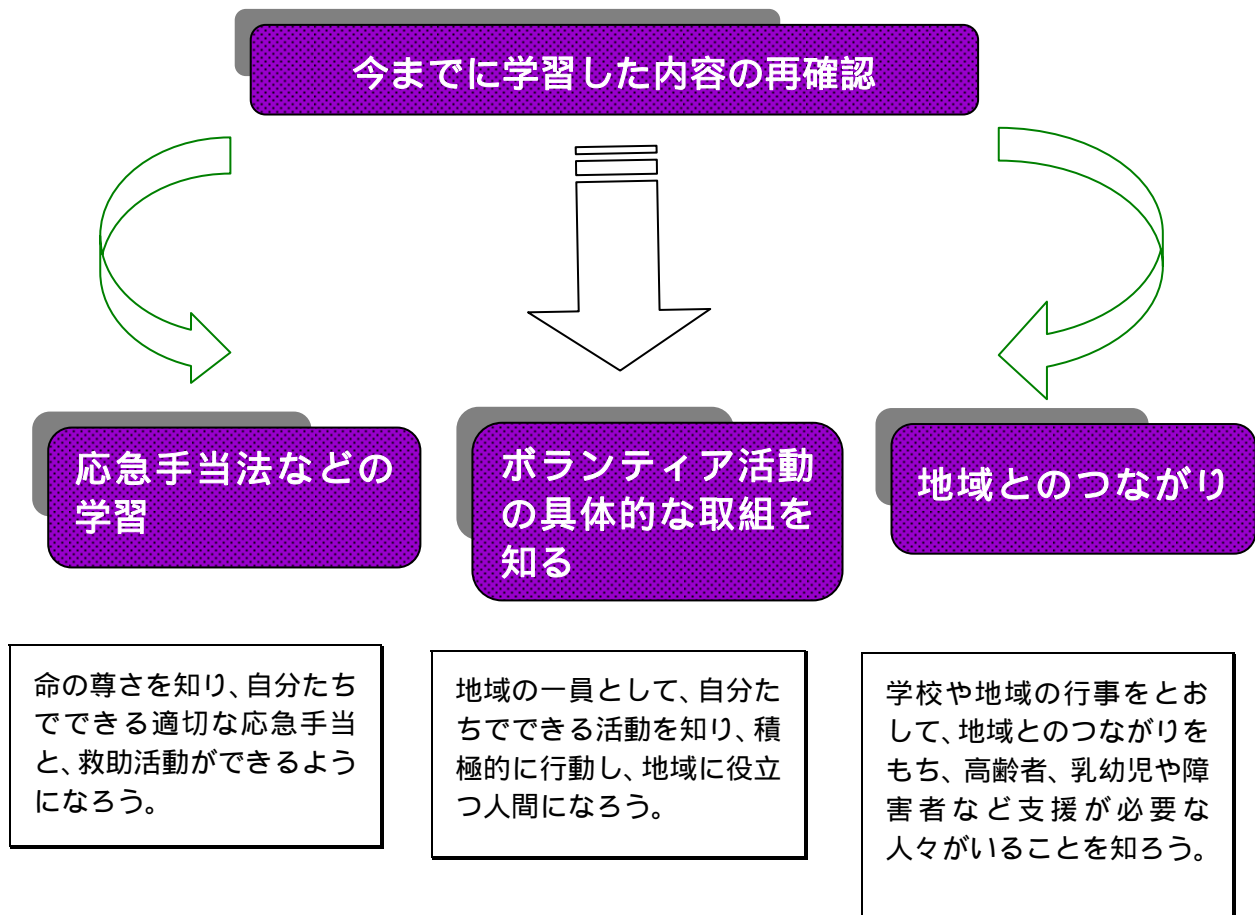
### 【目標】

『災害時、自分で自分の命を守ることができる。』

『災害後の活動に積極的に取り組む。』

- 1 これまでの防災学習をふり返り、揺れや津波から身を守る行動ができる。
- 2 地震後に、家庭や学校のまわりの住民の避難の手助けや、救助活動ができるよう地域とのつながりをもつ。
- 3 災害直後の救助活動に役立てるために、応急手当法などを身につける。
- 4 地域の一員として、ボランティア活動の具体的な取組を知り、災害後のボランティア活動に積極的に参加する。

### 【構成】



～ 高等学校編 ～

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
<b>応急手当</b> （1時間）	<p><b>「自分たちのできる応急手当とはどんなものか」</b></p> <p>【ポイント】 救出活動を含めて、応急手当についての知識を深める。</p>	<p>地震発生後の状況を想定し、応急手当に利用できるものを考えよう。</p> <p>ビデオ等により、応急手当の方法を知る。 専門家による講話を聞く。身のまわりにあるもので、応急手当に利用できるものを考える。</p> <p><u>身のまわりにあるものを応用してみる。</u></p>	<p>資料「ビデオ・CD一覧表」（42ページ参照）</p> <p>事前に消防署、日本赤十字等と連絡を取り合う。</p>
<b>応急手当</b> （2時間）	<p><b>「応急手当の訓練」</b></p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の応急手当法を身に付ける。</li> <li>・ 生徒どうしで応急手当を試してみる。</li> </ul>	<p>自分たちの身のまわりにあるものを用意し、実際の応急手当を試してみよう。</p> <p>専門家（消防士、日本赤十字指導員等）からの指導を受ける。</p> <p><u>生徒どうしで実際に行い、短時間でできるように訓練する。</u></p>	<p>身のまわりであり使えそうなものを用意する。</p> <p>専門家と事前に打ち合わせを行い、準備物・場所・服装等の確認をする。</p>
<b>ボランティア活動</b> （1時間）	<p><b>「ボランティア活動とはどんなものか」</b></p> <p>【ポイント】 実際に起こった災害時に行われたボランティア活動を知る。</p>	<p>災害後に行われたボランティア活動には、どんなものがあるのかを知ろう。</p> <p>ビデオ等により、災害後に行われたボランティア活動の実際を知る。</p> <p>ボランティア活動を実際に経験した人から体験談を聞く。</p>	<p>資料「ビデオ・CD一覧表」（42ページ参照）</p> <p>市町村防災担当課等とおして、活動経験者を紹介してもらう。</p>

構成	学習テーマ・目標	学習活動（内容・方法）	配慮事項
ボランティア活動（2時間）	<p><b>「災害後のボランティア活動」</b></p> <p>【ポイント】 必要とされるボランティア活動について考える。</p>	<p>災害を受けた人々が必要としているボランティア活動には何があるのかを考えてみよう。</p> <p>学校施設を利用してできる活動（炊き出し、宿泊、応急手当など）を想定し、具体的な連絡体制や準備物等を調べる。</p> <p><u>災害後の被害状況、時期、対象となる人々の違いなど、様々な要因を考えあわせてみる。</u></p>	<p>図書室やインターネットなどを利用して、調べることのできる環境をつくる。</p> <p>資料「ホームページ一覧表」(43ページ参照)</p>
地域との連携（2時間）	<p><b>「地域とのつながりをつくる」</b></p> <p>【ポイント】 学校や地域の行事等をとおして、地域住民とのつながりを持つ。</p>	<p>学校や地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのコミュニケーションをとり、つながりを持つ方法を考えよう。</p> <p>学校行事への地域住民の参加を呼びかける。</p> <p>地域の行事へ学校(生徒)も積極的に参加する。</p> <p>学校や家庭のまわりでの体験活動をとおして、地域住民を知る。</p> <p><u>学校や地域の行事の日程にあわせて、臨機応変に取り組んでみる。また、高校生の場合、家庭のまわりについても考えてみる。</u></p>	<p>日ごろから学校ホームページによる情報発信や収集に心がける。</p> <p>地域防災避難訓練に参加するなど、学校・地域の行事をとおして、地域住民と交流できる活動を取り入れる。</p>
地域との連携（1時間）	<p><b>「災害時に地域で支援を必要とする住民について考える」</b></p> <p>【ポイント】 周辺の保育所、幼稚園、病院、老人ホーム等の施設を知る。</p>	<p>災害時、学校のまわりや地域で支援を必要とする住民や施設について調べてみよう。</p> <p>老人 乳幼児 障害者 病院 その他の施設</p> <p><u>身近な施設との合同避難訓練等も考えてみる。</u></p>	<p>地域マップ作成シートを準備する。</p> <p>周辺地域の自治組織との連携を図る。</p>

高等学校の場合、応急手当・ボランティア活動・地域との連携の3つのテーマを、各3時間で設定しています。各学年の状況を見て、実践しやすいテーマから取り組んでみてください。

## 防災学習プログラムを進めるための配慮事項 ～ 中学校・高等学校編～

### 年間指導計画の作成

教科、総合的な学習の時間、特別活動等の年間指導計画の中に、**防災教育の視点**を入れて、それまでの学習内容を振り返りながら、学年に応じたねらいと内容を設定し、**卒業までに育てる力や態度を明確**にすること。

年度当初に避難訓練、応急手当、ボランティア学習などの計画を立てる際に、学習プログラムとの関連性を図りながら、**地震・津波の被害状況を想定した活動を取り入れ**、計画的に実施すること。

卒業までの一貫した指導を行うために、避難訓練時の指示・判断・合図等について、**学校全体での指導方法を確認**すること。

例；安全確保のための基本行動（第一次避難）

身体保護・・・安全な場所への避難・頭部の保護 等

避難口の確保・・・窓やドアを開ける・カーテンを閉める 等

危険物の取扱・・・電気、ガス、ストーブ等危険なもの取扱 等

避難時・・・靴・防寒着・帽子の着衣、人員確認、  
避難持ち出し袋 等

### 防災マニュアル（校内推進体制）の見直し（日ごろからの安全管理）

危機管理マニュアルの中に、**地震・津波を想定した防災マニュアル**も作成し、常に点検すること。

避難場所から保護者（家庭）に確実に引き渡す、もしくは帰宅させるまでの、避難場所での過ごし方や方法等について想定しておく。また、学校が地域における避難場所の場合、多くの**避難住民の受け入れや行政機関等との連絡体制を確立**しておくこと。

地震等による被害を最小限のものとするため、学校の施設・設備等の点検・整備を行い、**安全管理の徹底**を図ること。

例；避難経路となる廊下、階段、出入口付近には障害となる戸棚、置物、可燃性の物品は置かないようにすること。

；長時間過ごす教室には、振動で落下・転倒する危険性のあるもの（テレビなど）がないかどうか常に点検すること。

### 職員間での共通理解

防災教育を効果的に行うためには、**全教職員**で取り組むことが重要であること。

地震の規模の大小にかかわらず、生徒がパニック等に陥らないようにするため、心理面での不安や緊張を最小限にとどめるように、冷静かつ的確な言葉がけをするなど生徒を安心させるよう配慮すること。

授業中は、グランドや教室・特別教室など校内で生徒が分散する活動が多いため、非常時において教職員一人一人が役割を自覚し、適切かつ迅速に、統一した行動がとれるよう常に**共通理解**を図ること。

教職員が不在・負傷等により、生徒の避難誘導ができなくなった場合なども想定し、**生徒も教職員も臨機応変に対応**ができるようにしておくこと。

## 特別な援助を必要とする生徒等への配慮

避難訓練などを通して、教職員の指示が十分に聞けない、パニックに陥りやすい等の生徒一人一人の行動を把握するよう努めること。  
一人で移動できないなど、特別な援助を必要とする生徒の避難や安全確保に努めること。(ヘルプカードの作成 26ページ参照)

## 家庭・地域との連携

確実に保護者(家庭)に引き渡し(帰宅)することを最優先とし、保護者に対して、非常時の学校との連絡体制や避難場所、生徒の引き渡し(帰宅)方法等について普段から周知徹底すること。

引き渡しを確実にを行うため、「**引き渡しカード**」(37ページ参照)を作成するなど、保護者と検討・確認しておくこと。

災害の度合いによって、避難場所での避難生活が長期にわたることを想定して、生徒の健康管理に要する資料等の持ち出しについて準備をしておくこと。

学校長は、自主防災組織、地域防災協議会など**地域における防災関係者とのつながり**をもち、非常時に地域の協力を得るため、日ごろから近隣の**警察署、消防署、町内会等との連絡を密に**すること。

学校だよりや学校ホームページなどを通して、生徒たちの様子を地域に発信するなど、「開かれた学校づくり」に努めること。

## 関係機関との連携

生徒の安全確保のために、教育委員会、市町村防災担当課や消防、警察等の関係機関と連携を図り、**災害時の避難場所として指定されている場合は、その機能**について周知しておくこと。また、**避難場所における教職員の役割や担うべき業務等**についても全教職員で**共通理解**を図ること。

防災学習を計画する際に、地域における防災避難訓練等との連携を図る取組なども考慮すること。

防災無線や防災ベル等の緊急連絡の整備について、関係機関との連携を密にすること。

## 職員の防災教育研修

### 校内研修

- ・ 地震・津波等の災害に対する最新の知識・理解を得ること。
- ・ 防災マニュアル・防災学習プログラム・教材の検討
- ・ 防災学習の具体的指導方法の共通理解
- ・ 校内の安全管理・点検
- ・ 災害時の心のケア・カウンセリング研修 等

### 校外研修

- ・ 県や市町村の主催する防災・安全教育研修への参加
- ・ 防災教育を推進する学校の視察
- ・ 地域の防災避難訓練への参加 等

## 防災学習プログラム～盲・聾・養護学校編～

### 【目標】

『状況を理解して、自分の命を守ることができるようになる。』

1. 「揺れ」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
2. 「津波」から身を守る方法を知り、行動できるようにする。
3. 避難訓練を通して、地震が起こったときの行動力を身につける。

### 【構成】

保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の防災学習プログラムを基本にして、幼児児童生徒の実態に合わせた学習を進めます。

地震発生時は、幼児児童生徒一人ひとりの実態、学校の実情に応じた対応の方法があります。それらを考え合わせた学習内容を設定します。

視覚障害

聴覚障害

知的障害

肢体不自由

病弱・虚弱

その他の配慮事項

## 障害種別の配慮事項

障害のある幼児児童生徒は、震災時には避難、移動、情報収集、日常生活などにおいて、大変厳しい状況におかれることが予想されます。

そのため、幼児児童生徒の防災学習に際しては、保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の内容の他に、周囲の関係者が配慮したり、備えておかなければならない内容がたくさんあります。

障害種別の主な配慮事項には次のようなことが考えられます。学校や地域の実態に合わせて対応を検討することが必要です。

### 視覚障害

体験的な学習を取り入れた、地震に対する理解を促進する。

地震発生時、日常とは比較にならない障害物が発生した中での避難の仕方と身の安全を守る方法について指導しておく。

周囲の人に声をかけて（視覚障害者であることを告げ）、周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。

普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。

通信が遮断した時の情報の入手方法について指導しておく。

災害に備えた安全な生活空間の確保を普段から考えておく。

身近な住民に幼児児童生徒のことを知ってもらおうなど、地域での連携を進める。



## 聴覚障害

体験的な学習や視覚情報を取り入れた、地震に対する理解を促進する。

周囲の人に声をかけて（聴覚障害者であることを告げ）周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。

普段とはちがう避難所での生活の心構えや、周囲の人とのコミュニケーション手段について指導しておく。

聴覚障害者どうしの連絡方法や視覚情報の収集（文字放送対応携帯ラジオ等の活用）ができるよう指導しておく。

補聴器、専用電池を常に身近に置き、災害時に紛失しないための工夫と備えについて指導しておく。

身近な住民に幼児児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

## 知的障害

体験的な学習を取り入れた、地震に対する理解を促進する。

周囲の人に児童生徒の障害や支援の仕方が分かるヘルプカードを携帯することやその使用方法について指導し、安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。

普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。

定期的な服薬が必要な場合の薬や処方箋の準備をしておく。

こだわりのある物、食料等への対応と備えをしておく。

児童生徒が入所している施設等と緊密な連携がとれるようにしておく。

身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

## 肢体不自由

体験的な学習を取り入れた、地震に対する理解を促進する。

地震発生時、日常とは比較にならない障害物が発生した中での避難の仕方と身の安全を守る方法について指導しておく。

周囲の人に声をかけて（肢体不自由者であることを告げ）周りの状況を教えてもらうことや、ヘルプカードを使って適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。

避難所生活に必要な生活用品（紙おむつ、食事用品等）の備えをしておく。

普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。

災害に備えた安全な生活空間の確保を普段から考えておく。

定期的な服薬が必要な場合の薬や処方箋の準備をしておく。

車椅子、装具、杖など、移動に必要なものを常に身近に置き、災害時に紛失しないための工夫と備えをしておく。

災害時に関係する施設や病院と緊密な連携がとれるようにしておく。

身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

## 病弱・虚弱

体験的な学習を取り入れた、地震に対する理解を促進する。  
児童生徒の疾患の特性に配慮して防災学習の指導を行う。  
児童生徒の体調に合わせた避難方法について指導しておく。必要な場合はヘルプカードを使って安全な場所や適切な機関への誘導を依頼できるようにしておく。  
普段とはちがう避難所での生活の心構えについて指導しておく。  
定期的な服薬や特別な用具が必要な場合の薬等の確保と処方箋の備え、被災時の通院体制の確保について指導しておく。  
災害時に病院や主治医と連携ができるよう体制を整えておく。  
身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

## その他の配慮事項

地震発生時に、天井や窓ガラス等の落下物からの安全確保について、介助者が対策を講じておく。  
定期的な服薬や通院が欠かせない児童生徒の、被災時の病院との連携や薬の確保について考えておく。  
体温調節が不十分な児童生徒等が、避難所で体調管理ができる方法を考えておく。  
日常生活に必要な生活用品（紙おむつ、食事用品等）の備えをしておく。  
身近な住民に児童生徒のことを知っておいてもらうなど、地域での連携を進める。

「学校防災マニュアル（改訂版）・兵庫県教育委員会・平成18年3月」より

県立盲学校は、人数は少なかったが、地震発生時に施設内に子どものいた学校の一つである。震災前日に17名の子どもが寄宿舎に戻り、3名の寮母とともに泊まっていた。地震発生時刻、寮母はすでに起きていたが、激しいゆれ、地響きとともに、火災報知器のベルが鳴り出し、大変な状況だった。前の晩にストーブの消火を点検してあったため、すぐに子どもの部屋をまわり、机の下にもぐるように指示した。真っ暗な中ですでに廊下に出てきていた子どもを部屋にもどし、ゆれがおさまった後、子どもの動揺を鎮めるため一部屋に何人かずつ集めた。次に、余震に備えて全員を1階ロビーに集めることにし、上着を羽織らせて避難誘導した。幸い子どもの部屋と避難経路のガラスは割れていなかったため、懐中電灯で通路の安全を確認しながら無事に避難することができた。視覚障害の子どもをあずかっているため、平素から特に入念な避難訓練を行っており、震災時にそれが役立ち、子どもも教職員も落ち着いて行動することができた。

## ヘルプカードについて

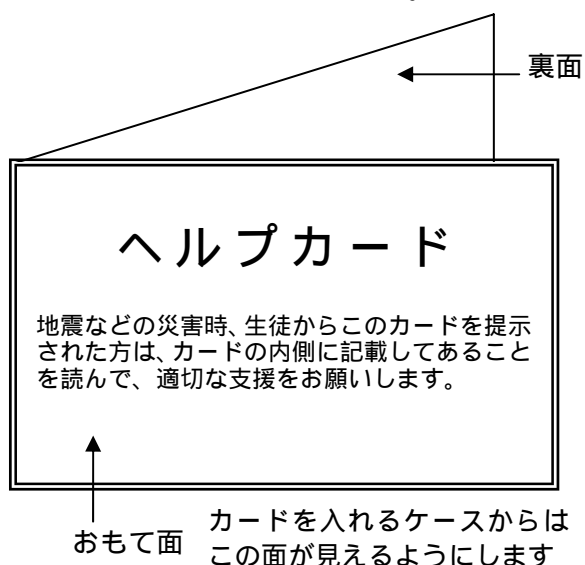
### ヘルプカードとは

地震はいつ発生するかわかりません。地震後の混乱の中で障害のある子どもたちが適切な支援を得るためには、本人に関する正確な情報が重要なポイントとなります。いざという時の適切な支援や、安否の確認が円滑にできるようにするために、あらかじめ受けたい支援の内容などについて書いておくものがヘルプカードです。

### 作成・使用の際の注意事項

ヘルプカードは個人に関する情報がたくさん記載されます。そのため、子どもたちに携帯させる際は、個人情報の保護に十分配慮することが必要です。具体的には、カードを二つ折りや三つ折り等の状態にし、カードの内側に必要な事項を記載するなどの工夫が必要です。その際、カードを提示された一般市民の方々が、カードの内側に必要な事項が記載されていることが見て分かるようにすることも必要です。

また、個人情報保護の観点から、記載事項は命を守るために必要な最小限の情報に絞り込むことも必要です。



内側に、必要な報告や、支援の内容を記載します。記載する内容が多い場合は、三つ折りや四つ折りにします。

### 携帯の方法は個人の特性に応じて

ヘルプカードをどのように携帯するかは、子どもの特性に応じて工夫します。首に付ける、ポケットに入れる、カバンに入れる、など子どもが一番携帯しやすく、しかも、もしものときに確実にヘルプカードを提示できる方法を検討することが必要です。

### 記載内容の検討

ヘルプカードに記載する内容は、保護者や本人と十分に話し合って決めることが必要です。障害や疾患が本人に告知されていないなど、扱いに配慮を必要とする場合もあります。

また、必要な情報を、支援する人に確実に伝えることは必要ですが、文章の表現は子どもの年齢なども考慮し、本人の自尊心を大切にしたい表現になるよう、関係者で話し合って決めることも必要です。

## ヘルプカードの例 (知的障害の場合)

# ヘルプカード

私には次のような障害があるので、適切な支援をお願いします。

氏名	すずき たろう 鈴木 太郎	学校名	高知県立 養護学校 中学部3年生	電話	088-123-4567
自宅	高知県高知市 町1丁目2-3	電話	088-234-5678	保護者	すずき けんたろう 鈴木 健太郎
私の障害	知的障害があり、会話を理解したり、お話を正しく伝えることが十分できないことがあります。				
<b>次のことについて手助けをお願いします</b>					
<p>学校(または自宅)に連絡を取って、今いる場所を伝えてください。</p> <p>連絡が取れない場合は、適切な避難所に案内して、避難所の担当者の方に事情を説明してください。</p> <p>2, 3日に1回程度けいれん発作が起きます。その時は安全な場所で顔を横にして寝かせ、吐いたもので窒息しないように注意してください。しばらくすると意識がもどります。</p> <p>けいれん発作の薬は「デパゲン」を mg / 1日 毎日服薬しています。避難所に医師がいる場合はこのことを伝えてください。</p> <p>不安になると外に出て、もどってくることができなくなることがあるので、気をつけてください。</p> <p>ぬいぐるみが好きで、持っている则ち着きやすいです。</p> <p>普段は「たろうくん」と呼ばれていますので、そのように呼んでいただくと、理解しやすいです。</p>					

イラスト～地震前～ 1

1. 学校編

教室



廊下・階段



音楽室（図書室）



体育館



運動場



イラスト～地震前～ 2

2. 家庭編

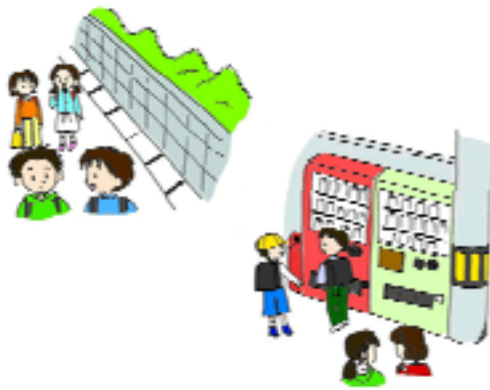
寝室



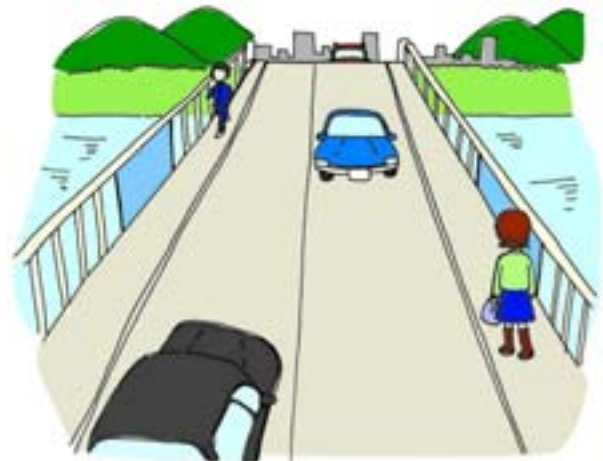
リビング



登下校遊び編



海・川岸近辺、橋上



山・崖近辺



# イラスト～地震後～ 1

## 1. 学校編

教室



廊下・階段



音楽室（図書室）



体育館



運動場



2. 家庭編

寝室



リビング



登下校遊び編



海・川岸近辺、橋上



山・崖近辺



## 新潟県中越地震における現地調査写真

### 避難所の状況



日本赤十字社（高知県支部）提供

### 避難所での活動（炊き出し・風呂設営）



### 車内での避難生活



日本赤十字社（高知県支部）提供

### ボランティアの状況



### 長岡市社会福祉センター

### 建物被害の状況



日本赤十字社（高知県支部）提供

## 阪神・淡路大震災における現地調査写真



(撮影者・川瀬信一：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・川瀬信一：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・前田耕作：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・進藤裕之：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・進藤裕之：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・進藤裕之：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・大木本美通：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)



(撮影者・進藤裕之：神戸大学附属図書館「震災文庫」提供)

< 参考資料 >

我が家の防災チェックシート



( 参考例 )

氏名 ( )	自分の家のことを考えて、「はい」ならば、印してみましよう。
家の中	家の外
家具の上に重いテレビや壊れやすい物はおいていない。 背の高い家具や上下に分かれた家具には、転倒防止器具や連結金具がついている。 エアコンは、壁にしっかり固定されている。 天井からつり下げた照明器具は、チェーンなどでしっかりとめている。 窓ガラスやサイドボードなどのガラスには、飛散防止フィルムをはっている。 カーテン、壁紙、カーペットなどは、防災加工のものである。 階段には、手すりや滑り止めをつけている。 家の耐震性を調べ、必要なら補強している。 すぐ使えるところに消火器があり、使い方を知っている。 寝室の家具は、固定している。 寝室に家具の上に、重いものは置いていない。 枕元に懐中電灯、携帯ラジオ、めがね等を置いて寝ている。 水や食料を多めに用意している。	我が家のブロック塀には、鉄筋が入っている。また、控え壁がついている。 屋根瓦やスレートに、ひびわれ・ずれ・はがれがない。 アンテナや外灯に、腐食やゆるみがない。 プロパンガスボンベは、しっかりと固定している。 家のまわりの石垣には、ずれや崩れがない。 窓ガラスに、ひび割れやがたつきはない。 家の外壁に、亀裂や浮きがない。 ベランダに落下の危険性のある植木や物干し、避難の邪魔になるものはない。 ベランダの避難ハッチの上や、しきり壁の前に、邪魔なものは置いていない。 自分の住む地域の予想される、地震や津波の被害状況を知っている。 津波等に対する避難場所への経路が、確認できている。 家族が離れ離れになったときの連絡先、連絡方法、集合場所が、確認できている。

## 災害時の応急手当

### 自分がけがをしたら

1. あわてて一人で動かない。動き回ると、ひどくなる。
2. すぐ大声を出して、近くの人に助けを求める。

### けがをしている人がいたら

1. 救急車や医者へ連絡をする。または、近くの人にけがのようすを知らせ、救急車や医者への連絡を依頼する。
2. 次のような簡単な応急手当をする。

### 止血法

#### ・直接圧迫法

厚めのガーゼを傷口に当て、手で強く圧迫する。タオルやハンカチなどでもよい。



傷口を直接に押し当てる  
止血剤も圧迫する

#### ・間接圧迫法

傷口より心臓に近い動脈の止血点を、骨に向かって強く押す。



傷のつじ動脈を圧迫する



・傷口が手足であれば、出血部を心臓より高くする。

### だぼく・ねんざ

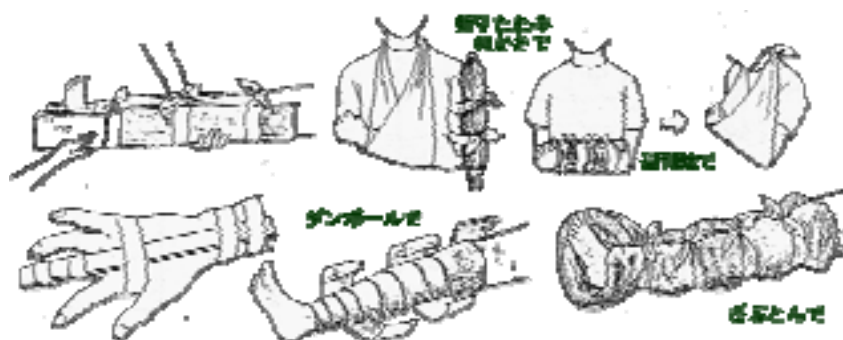


- ・冷たい水やぬらしたタオルで冷やす。
- ・災害時には水が使えない場合があるので、瞬間冷却パックなどの準備をしておく。

- ・患部を高くする。
- ・患部を動かさない。

- ・冷やした後、割りばしなどで固定する。

## 骨折



- ・前腕や上腕部の骨折は、三角布やふるしき、スカーフなどで上下の関節を動かさないように固定する。
- ・折れた部分に固定具（<sup>ふくし</sup>副子）を当てて、包帯やハンカチなどで固定する。（固定具は、板・ダンボール・週刊誌・かさなど身の回りにあるものが利用できる。）

## やけど



- ・きれいな冷水で痛みがなくなるまで冷やす。
- ・氷などを布で包み、患部を冷やす。
- ・患部の衣服はぬがさないで水かける。

## 引き渡しカード例

### 引き渡しカード（緊急連絡個票）

小学校

分団番号		自治会名		年 組 番																
児童氏名		性別	生 年 月 日	保護者氏名																
			平成 年 月 日生																	
在学生兄弟姉妹関係の有 無	有	年 組 氏名	年 組 氏名	無																
		年 組 氏名																		
住所				電話																
緊急時の連絡先及び引き取り者（保護者）																				
氏名		児童との関係 ( )	連絡先	電話																
氏名		児童との関係 ( )	連絡先	電話																
緊急時の連絡先及び引き取り者（保護者以外）																				
氏名		児童との関係 ( )	連絡先	電話																
かかりつけの医療機関名	内科		眼科																	
	外科		歯科																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">引き取り者氏名</td> <td style="width: 30%;"></td> <td style="width: 10%;">児童との関係</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>引き渡し時刻</td> <td>平成 年 月 日</td> <td>時 分</td> <td></td> </tr> <tr> <td>引き渡し場所</td> <td></td> <td>引き渡し教職員名</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">避難場所</td> </tr> </table>					引き取り者氏名		児童との関係		引き渡し時刻	平成 年 月 日	時 分		引き渡し場所		引き渡し教職員名		避難場所			
引き取り者氏名		児童との関係																		
引き渡し時刻	平成 年 月 日	時 分																		
引き渡し場所		引き渡し教職員名																		
避難場所																				

### 引き渡しカード（一覧表）

小学校

第 ( ) 分団	自治会名 ( )	児童数 ( ) 名	担当教職員名 ( )		
年 組	児 童 氏 名	性別	保 護 者 氏 名	引 き 受 け 者 氏 名	続 柄



## 防災学習教材として活用できるゲーム等の紹介

：問い合わせ先

これらのゲーム等は、少数ですが、2つの課から貸出可能です。

高知県総務部危機管理課(088-823-9317) 高知県教育委員会児童生徒支援課(088-821-4928)

### <あそぼうさいカルタ>

：高知県危機管理課  
(HPにも掲載)



### <防災ダック>

：(社)日本損害保険協会

No.	防災の対象	動物	声	コメント (下段はポーズ)	メッセージ
1	地震	ダック	ダック!	じしんのときは「ダック」のポーズ *両手に頭を乗せかがみ込む	まず あたまをまもろう。 (じょうぶな つくえのしたに もぐろう。)
2	津波	チータ	びゅーん	つなみのときは「チータ」のポーズ *両手を早く振る	できるだけ たかいところまで はしろう。
3		タヌキ	うっ	かじのときは「タヌキ」のポーズ 両手に口をあてる	ぬれたハンカチを くちに あてよう。

主に危険が書かれている表面 動物のポーズが描かれている裏面



表面



裏面



### <大ナマジン防災すごろく>

：京都大学生協

「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」  
(文部科学省) 成果物



### <「ぼうさい駅伝」>

：(財)市民防災研究所



## 平成 18 年度市町村・消防防災担当課 一覽

市町村	担当課室	電話番号	FAX	夜間番号
高知市	防災対策課	088-823-9040	088-823-9008	088-822-8111
室戸市	総務課	0887-22-3106	0887-22-1120	0887-22-1111
安芸市	まちづくり課	0887-35-1010	0887-35-4445	0887-34-1111
香南市	防災対策課	0887-57-8501	0887-56-0576	0887-56-0511
香美市	防災対策課	0887-53-1061	0887-53-5958	0887-53-3111
南国市	総務課	088-880-6551	088-863-1167	088-863-2111
土佐市	総務課	088-852-7602	088-852-5290	088-852-1111
須崎市	総務課	0889-42-3791	0889-42-7320	0889-42-2311
四万十市	総務課	0880-35-2044	0880-34-5123	0880-34-1111
宿毛市	総務課	0880-63-0948	0880-63-6370	0880-63-1111
土佐清水市	総務課	0880-82-1134	0880-82-2882	0880-82-1111
東洋町	総務課	0887-29-3111	0887-29-3813	0887-29-3111
奈半利町	総務企画課	0887-38-4011	0887-38-7788	0887-38-4011
田野町	総務課	0887-38-2811	0887-38-2044	0887-38-2811
安田町	総務課	0887-38-6711	0887-38-6780	0887-38-6711
北川村	総務課	0887-32-1212	0887-32-1234	0887-32-1212
馬路村	総務課	08874-4-2111	08874-4-2779	08874-4-2111
芸西村	総務課	0887-33-2111	0887-33-4035	0887-33-2111
本山町	総務課	0887-76-2223	0887-76-3593	0887-76-2223
大豊町	総務課	0887-72-0450	0887-72-0474	0887-72-0450
土佐町	総務課	0887-82-0480	0887-82-2681	0887-82-0480
大川村	総務課	0887-84-2211	0887-84-2328	0887-84-2211
いの町	総務課	088-893-1113	088-892-0353	088-893-1111
仁淀川町	総務課	0889-35-0111	0889-35-0571	0889-35-0111
春野町	総務課	088-894-2312	088-894-5136	088-894-2311
中土佐町	総務課	0889-52-2211	0889-52-4511	0889-52-2211
佐川町	総務課	0889-22-7700	0889-22-1119	0889-22-7700
越知町	総務課	0889-26-1111	0889-26-0600	0889-26-1111
四万十町	総務課	0880-22-3111	0880-22-3123	0880-22-3111
檮原町	総務課	0889-65-1111	0889-65-0956	0889-65-1111
津野町	総務課	0889-55-2311	0889-55-2022	0889-55-2311
日高村	総務課	0889-24-5111	0889-24-7966	0889-24-5111
黒潮町	総務課	0880-43-2112	0880-43-2788	0880-43-2111
大月町	総務政策課	0880-73-1111	0880-73-1380	0880-73-1111
三原村	総務課	0880-46-2111	0880-46-2114	0880-46-2629

# 教材として使えるビデオ・CD一覧表

	ビデオ名等	対象	内容	時間	保管(作成)者
1	南海地震に備える	小	南海地震の基礎知識		高知県危機管理課
2	教えてトラフ博士 -南海地震を学ぶ(CD-ROM)	小中	南海地震の基礎知識		高知県危機管理課
3	TSUNAMI (CD-ROM)	中高	パソコンを使っでの学習。 須崎チリ地震津波映像。		高知県危機管理課
4	備えあれば憂いなし 「地震防災対策」	中高一般	普段の地域での訓練を重視した内容。	2 2分	高知県危機管理課
5	わがまち再発見 -ぼうさい探検隊-	小	「自分で歩き、確かめて発見する」防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」の手順や様子をまとめたもの。	2 2分	高知県危機管理課
6	地震! あなたができること	中高一般		2 1分	高知県危機管理課
7	東南海・南海地震に襲われたら～緊急事態! その時あなたは! ?～	小中高	物語的なストーリー性を持たずとともに、スマホ島沖地震・津波の映像やCGを活用するなど、災害の恐ろしさを実感できる内容。	3 0分	高知県危機管理課
8	ワグニフット'明日への架け橋	中高一般	大地震時の極限状態における人間の絆を描いた映画。	9 0分	高知県危機管理課
9	20世紀 日本の地震被害	中高一般	20世紀に起きた日本の地震災害について。	4 0分	高知県危機管理課
10	ほんの少しの勇氣(字幕入)	高	高校生の防災ボランティア体験		高知県危機管理課
11	南海大地震の記録(CD-ROM)	中高一般	県内での昭和南海地震の資料・映像		高知県危機管理課
12	地震・・・その時に備えて 避難編(CD-ROM)	小中高	大規模地震の被害紹介、地震に対する備えと被災後の行動等を分かりやすく解説。		高知県危機管理課 (日本宝くじ協会)
12	南海地震にそなえて I Z A (災害時要援護者)	中高一般 字幕付き	障害種別に災害への備えと、災害時の対処方法について障害者本人向けに解説。	3 0分	高知県全市町村防災担当課
13	南海地震にそなえて I Z A (災害時要援護者)	中高一般	災害時に、障害者へどのように支援を行うのかを障害種別に解説。近隣(地域)住民向けの啓発ビデオ。	3 0分	高知県全市町村防災担当課
14	検証 脆弱列島日本 阪神・淡路大震災の教訓	中高一般	「水がでない! 大都市の盲点」編		高知県生涯学習課 (朝日ニュースター)
15	地震はなぜ起こる?～地震の なぞを探ってみよう～	中	地震現象の観察とその機構について		高知県生涯学習課 (NHKエンタープライズ)
16	証言! 阪神大震災 その時くるまは ドライバーの体験から	中高一般	神戸近郊の交通網の被害について		高知県生涯学習課 (カジマビジョン)
17	本気で地震対策していますか	中高一般	家具の固定や非常用品を具体的に分かりやすく解説		高知県生涯学習課 (日本広報協会)
18	阪神・淡路大震災に学ぶ	高	地震の知識と対策		高知県生涯学習課 (東文)
19	阪神大震災の教訓	高	貴重な体験や大災害の資料映像		高知県生涯学習課 (東映)
20	防災～地震被害防止～あなた を守る智恵と行動	中高一般	地震のメカニズムや被害状況の説明と、日頃からの備えや適切な行動の解説		高知県生涯学習課 (日本広報協会)
21	阪神大震災を生きる-助け合い 思いやる心-	中高一般	助け合い、協力する市民の活動を通して阪神大震災を見つめた異色作		高知県生涯学習課 (新生映画)
22	1月18日・阪神淡路大震災 に学ぶ 僕は、あの日を忘れない(アニメ)。	小中	大震災を教訓に、地震の恐ろしさ、悲しさを身近に感じてもらう。		高知県生涯学習課 (アニメーション画房 わ組)
23	私たちの防災(CD)	中・高 字幕付き	身近な災害、防災対策、みんなで防災、やってみよう社会貢献の4章から構成されている、教師用副読本付き。		高知県児童生徒支援課(日本経済教育センター)

防災学習に

活用できる

# ホームページ一覧表

## 高知県危機管理課・消防防災課のホームページ

<http://www.pref.kochi.jp/~shoubou/index.html>

高知県の地震対策に関する総合的な情報が掲載されています。「南海地震に備えて Good!!」には、キッズコーナー（南海地震クイズ、あそぼうさいカルタ、4コママンガ）、高知県の津波浸水予測や地震予測があります。

## 高知県立図書館「完全防災本マニュアル」

<http://www.kochinet.ed.jp/pref-lib/topics/index.html> - 18

ここ数十年の間に「必ず起こる」と言われている次の「南海地震」に備え、防災対策に役立てるため、以下の3テーマに分けて所蔵の本や資料をリストアップした「完全防災本マニュアル」があります。

防災対策！準備万端！用意周到！！南海地震  
聞き書き！実録！！歴史で見た！！南海地震  
調査！検証！！科学の目で見た！！南海地震

## 高知市防災対策室 ふれあい情報広場

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/05/0502/bousai/index.htm>

高知市の防災に関する情報広場です。南海地震に関する情報も豊富です。

## 障害者のための防災／支援マニュアル「I Z A（いざ）」

<http://www.pref.kochi.jp/~shougai/bousaiindex.html>

高知県障害福祉課が作成した、障害がある人たちが、地震や台風、火災などの災害が起きた時、「自分を助け、誰かに助けてもらうために、そして誰かを助けるためにどうしたらいいか」「そのときのために、今、どんなことをしたらいいか」を実行するための、障害者のための防災／支援マニュアルがあります。

## 岡村土研

<http://sc1.cc.kochi-u.ac.jp/~mako-ok/index.html>

高知大学理学部防災科学コース内の研究グループによるホームページです。昭和南海地震写真館などもあります。

### 防災情報のページ（内閣府）

<http://www.bousai.go.jp/>

内閣府防災担当のホームページです。わが国の防災に関する内容に関する総合的な内容が豊富に掲載されています。

### 阪神・淡路大震災教訓情報資料集

<http://www.hanshin-awaji.or.jp/kyoukun/>

このホームページは、内閣府（当時の国土庁）が平成 9～11 年度に実施した「阪神・淡路大震災の教訓情報分析・活用調査」の成果である「阪神・淡路大震災教訓情報資料集データベース」などを公開しています。

### 地震調査研究推進本部地震の基礎知識

<http://www.jishin.go.jp/main/index.html>

地震の基礎知識、地震活動の評価等が掲載されています。

### 東京大学地震研究所地震予知情報センター

<http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/index-ja.html>

研究者並みの知識はこのサイト

### 地球キッズ探検隊～地震の謎にせまる

<http://www.jishin.go.jp/kids/index2.html>

子ども向けの「地震の謎にせまる」サイト

### 総務省消防庁防災危機管理 e-カレッジ

<http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html>

地域住民の方々、消防職員・消防団員、地方公務員等の方々が、インターネット上で気軽に防災・危機管理に関して学ぶことができます。

### 内閣府防災担当「みんなで防災」のページ

<http://www.bousai.go.jp/minna/>

市民、学校、企業、町内会、ボランティア、NPO などのの方々が、防災の取組を考えていただく際、役に立つ情報やノウハウが掲載されているページです。

### 稲むらの火と地震対策

<http://www.inamuranohi.jp/>

「稲むらの火」は、昭和12年～22年に渡り、国定国語読本五年生に掲載され、多くの小学生の感動を呼んだ名作です。

### 火山の教室

<http://vulcania.jp/school/index-c.html>

小・中学校における火山学習を支援するページです。

### 防災キッズミュージアム

<http://www.dri.ne.jp/html/kids/>

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターによる、子ども向けの分かりやすいページです。

### 消防防災博物館（財）消防科学総合センター

<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>

インターネット上の仮想博物館です。自然災害の基礎知識をわかりやすく見て学べます。災害時の料理レシピも紹介しています。

### 消防雑学事典（東京消防庁）

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/libr/index.html>

消防にまつわるさまざまな雑学が80近くあります。

### 防災教育チャレンジプラン

<http://www.bosai-study.net/top.html>

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのホームページです。

### 阪神・淡路大震災教訓情報資料集

<http://www.hanshin-awaji.or.jp/kyoukun/index.html>

多くの報告書、レポートに収められた教訓・体験が体系的に整理されています。

### 阪神・淡路大震災関連情報データベース

<http://sinsai.fdma.go.jp/search/>

消防庁のサイト。「消防・防災」をキーワードに震災対策の企画・立案の参考となる資料が収録されています。

### 神戸大学震災文庫

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb>

デジタルギャラリーでは、貴重な写真資料、動画資料を閲覧できます。また、一部の報告書や一次資料についてもPDFファイルが閲覧できます。

### 静岡県地震防災センター

<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/>

地震防災に対する意識高揚と、防災対策の一層の推進を目的とした地震情報ホームページです。

### 神戸新聞 阪神・淡路大震災のページ

<http://www.kobe-np.co.jp/sinsai/index.html>

地元紙の息長く、深い取材の成果から得るものは大。震災直後から10年にわたる連載記事ほかを閲覧することができます。

### 財団法人 日本建築防災協会

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/>

我が家の耐震診断のリーフレットがダウンロードできます。

### 気象庁 はれるんランド

<http://www.jma.go.jp/jma/kids/>

学習コーナー、質問コーナー、ゲームコーナー、プレゼントコーナーがあります。

### スマトラ沖地震とインド洋大津波

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ka8001/sumatra.html>

スマトラ沖地震とインド洋大津波に関する内外の情報や映像を閲覧できる。

## 【防災教育ワーキングチーム】

高知県教育委員会幼保支援課	指導主事	村田公美子
〃	小中学校課	指導主事 濱口 明大
〃	高等学校課	指導主事 竹村 謙
〃	特別支援教育課	指導主事 田中 信一
〃	体育スポーツ課	指導主事 高橋 志治
〃	児童生徒支援課	健康すこやか班長 森田 陽子
〃	児童生徒支援課	指導主事 五十嵐起世
高知県総務部危機管理課	防災教育担当	辻 咲子

## 『土佐の防災学習プログラム ～南海地震に備えよう～』

発行 平成18年3月  
発行者 高知県教育委員会事務局 児童生徒支援課  
〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号  
TEL: 088-821-4928  
FAX: 088-821-4926